

令和7年度第一回当別町新庁舎建設検討委員会報告書

- 1 日 時 令和7年5月28日（水） 10:00～12:00
- 2 場 所 役場第二庁舎
- 3 出席者
(出席委員) 高橋委員長、和田副委員長、川村委員、下段委員、石田委員、松岡委員、袴田委員、小貫委員
(町及び事務局)
【事務局】 長谷川企画部参与、遊佐事業推進課長
事業推進課 米内主幹、有澤主事
- 4 傍聴者 4名
- 5 会議概要
開会后、次第により、次のとおり委員会を取り進めた。
 - ・委員長挨拶
 - ・議 事
事務局より「令和7年度の検討事項について」、「今年度のスケジュールについて」、「新庁舎の機能・規模について」を資料に基づき説明した。
 - ・質 疑
委 員：分散化については、事業費の縮減があまり期待できないことに加え、役場機能が一か所に集まっていたほうが役場職員にとっても町民にとっても利用しやすいと思うので、考えなくても良いと思う。
複合化については、図書館や文化センターを併設することは事業費が増加することに加え、役場の機能と性質が異なる。我々としては委員会では役場の建設に限って議論すべきで、それ以外の部分については別途議論すればよいと考える。
委 員 長：自分も基本的には同じ考えである。小規模の文化センターであれば、役場に設置することで人を呼び込めて、町の活性化につながるとも考えられる。
委 員：自分は庁舎というのは、まちづくりのための一つの手段でしかないと思っている。町づくりの方向性として、子育てに力を入れるのか、デジタルの推進に力を入れていくのか、そういった町政に合わせた役場機能を持たせるのが良いと思う。資料3のフリーアドレスについては、職場の環境を向上し優秀な人材を確保するために、神奈川県庁で導入したという事例を知っている。話は変わるが、複合化について、6月18日から19日にかけて岩手県の紫波町の視察に行きたいと思っている。紫波町ではPPP、PFIを活用して複合施設を建てており、どういった事業手法でやったのか勉強してきたいと思っている。

- 委員：庁舎を建てたら、その先何十年も使っていくと思うが、当別町の30年後、50年後に町がどうなっていれば、町民にとって最もよいのか、そういった視点から機能や場所について検討を進めていければと思う。
- 委員：複合化について、これからデジタル化が進んでいく中で、集える場所というものも必要じゃないかなと思う。極端な話、一度も役場に来たことが無い人もいると思う。ただ、お金のかかる話なので、役場機能を中心に考えていくのか、複合化を中心に考えていくのか、どちらに舵を切るのか決めていくことが大事。
- 委員：改修はやめて、新築で建てる方向で進んでほしい。そこで、財源的な問題が気になる。どう予算計上するのか。また現役場庁舎の跡地利用や旧公民館の進み具合を教えてください。
- 事務局：まず、財源については、事業手法の話に関わってきます。過去の調査で、事業費用は46億円ほどかかるとされていますが、他の市町村でやっているように、町が借金をして調達するのか、民間に建ててもらって町が何年かにわたって賃料を払って利用するという方法をとるのか。そこについては次回議論していきたいと思っています。
- 跡地利用については、特に決まっていません。
- 旧公民館については、周辺が民地のため、候補地に入れる段階で地権者に相談をしています。具体的な話はしていませんが、建設候補地の方針が定まったときにしっかりと説明したいと思っています。
- 委員：46億円という数字は、町として大丈夫なのか。
- 事務局：非常に高額な事業費になりますので、委員の皆様も気になるころだとは思いますが。役場庁舎を建設するための基金はありませんが、財政調整基金やふるさと納税の貯金という、そういったストックはあります。ただ、ストックについては全部使うことは難しいので、起債についても考える必要があります。起債にも、各施設の利活用をするなかで、返済金が減免されるというものもありますので、そういった有利な起債や補助金について使えるものがあるか追求していきたいと思っています。
- 委員：分散化ではなく、新築のほうが良い。複合化については役場機能を優先してもらいたい。紫波町の事例については興味があるので、ぜひ結果を報告してほしい。
- 委員：議論に時間をかけていくことは良いことなのかもしれないが、委員会では庁舎建設に向けて話し合っていくのであって、複合化だとかそういったことについては別の次元の話ではないのかなと思う。新築するならば、場所はここに決めて動いていく、ということを委員会で議論すべきだと思う。財源などについては役場サイドで考えることであって、素人の自分にとってはわ

からないことが多い。

委員：第二回の検討委員会までに、町の方針を資料に提示してもらって、それに沿った庁舎建設について議論するというのがベストだとは思いますが、次回が6月下旬ということで難しいというのも理解できる。ただ、複合化の有無により最適な事業手法も変わってくる話だと思うので、可能であれば早めに町の方針を示していただきたい。

委員長：文化センターについて、何か使える基金があるんですね。

事務局：文化センター基金が2億円ほどあり、活用する術はあると思う。文化センターを庁舎に複合化するメリットとして、玄関やトイレ等を共用することができ、単独で建てるよりも事業費を抑えられるという点がある

委員長：人の流れが活発にならないと、経済も動いていかないという部分もあると思うので、そういった複合化についても検討していければと思います。

事務局：複合化について、委員の皆様から様々なご意見をいただきました。その中で、本委員会で複合化についてまで考えるのかとご指摘ありましたが、中身の話は詰めていくのではなく、「町の未来を考えたときに、複合化についても考えるべきだ」というような提言をいただければと思います。その提言に付記するような形で文化センターであったり、紫波町の現地視察の結果等を盛り込んでいただくような形を想定しています。

また、防災機能や役場職員の事を考えて早く役場を建てたほうが良いとの意見をいただきましたが、早期建設にあたりリースという手法があります。町が発注するやり方だと、基本計画、基本設計といったように段階を踏んでいかななくてはならないですが、リース手法だとリース会社が一括して行い、最終的な部分だけ役場が入るというやり方になるので、2年ほど工期が短縮される可能性があります。

最後に、建設候補地について、なんとなく委員の皆様からは旧公民館でいいんじゃないかという声が聞こえていますが、旧公民館は周辺の民地を買収できて初めて使える場所だと思います。民地の買収というのは非常にデリケートな部分でもあります。もし買収がうまくいかなかった場合には、第二候補として町有地の中で場所を決めていったほうが良い、というような提言をいただければと思います。

委員：この委員会では庁舎建設について審議をしていき、複合化についての中身は、専門性を持った人で議論したほうが良いと思っている。そのため、提言書には庁舎建設の可否について記載し、付帯意見として複合化の検討も入れればよいと思う。

事務局：委員皆様の議論の上、提言書に、こういったことを検討してはいかがか、という宿題のようなことを書いていただければ、町としてその提案を受け止め

るきっかけになります。

提言書をまとめていただいた後も引き続き、町が策定作業を進める基本構想の案を皆さんに見てもらう機会を設けようと思っています。その際に、委員の皆様から「ここは具体的に書いたほうが良い」「この部分は削ったほうが良い」のような意見をいただいて、修正したものを再度お見せする。そういった流れで進んでいければと思っています。

委員長：他にご意見、ご質問等ありませんか。

本日は、今年度の検討スケジュールと、新庁舎の機能・規模について、事務局より説明がありました。

次回の委員会では、新庁舎の建設手法や建設場所について協議していくことになります。

引き続き、委員の皆様のご協力をいただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

・その他

事務局より、次回の委員会を6月26日に開催する旨、連絡した。

資料も事前にお示しできるような形で調整する旨、連絡した。

以上